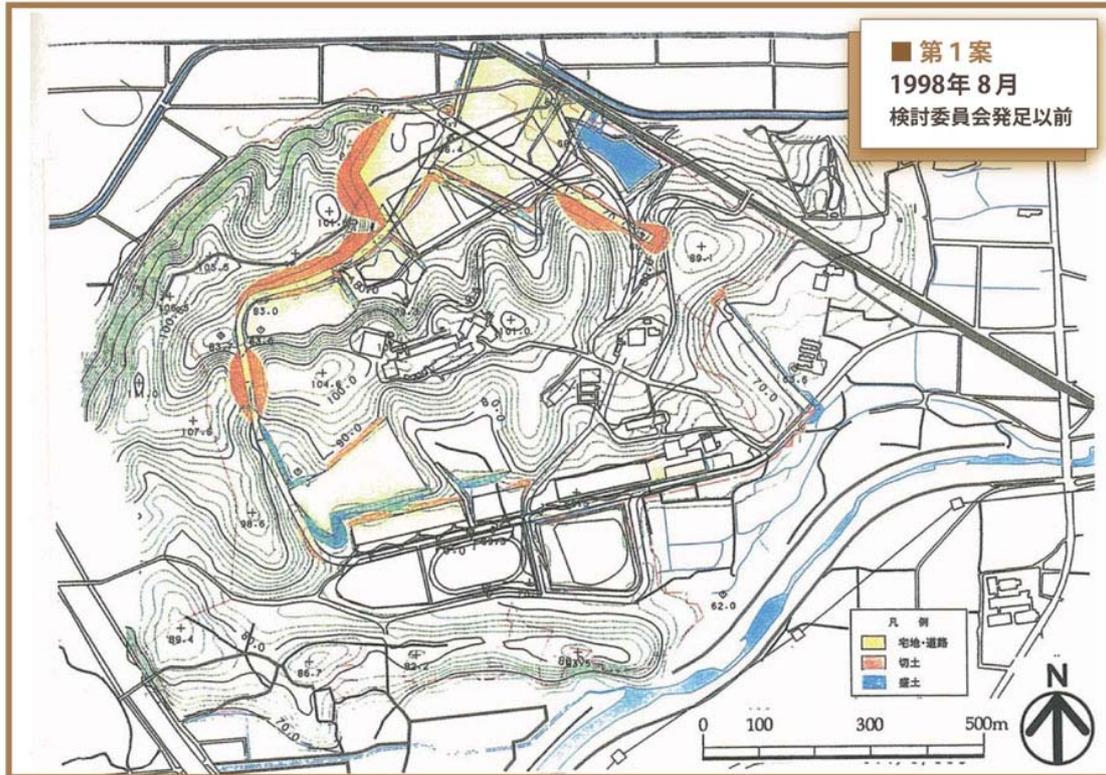
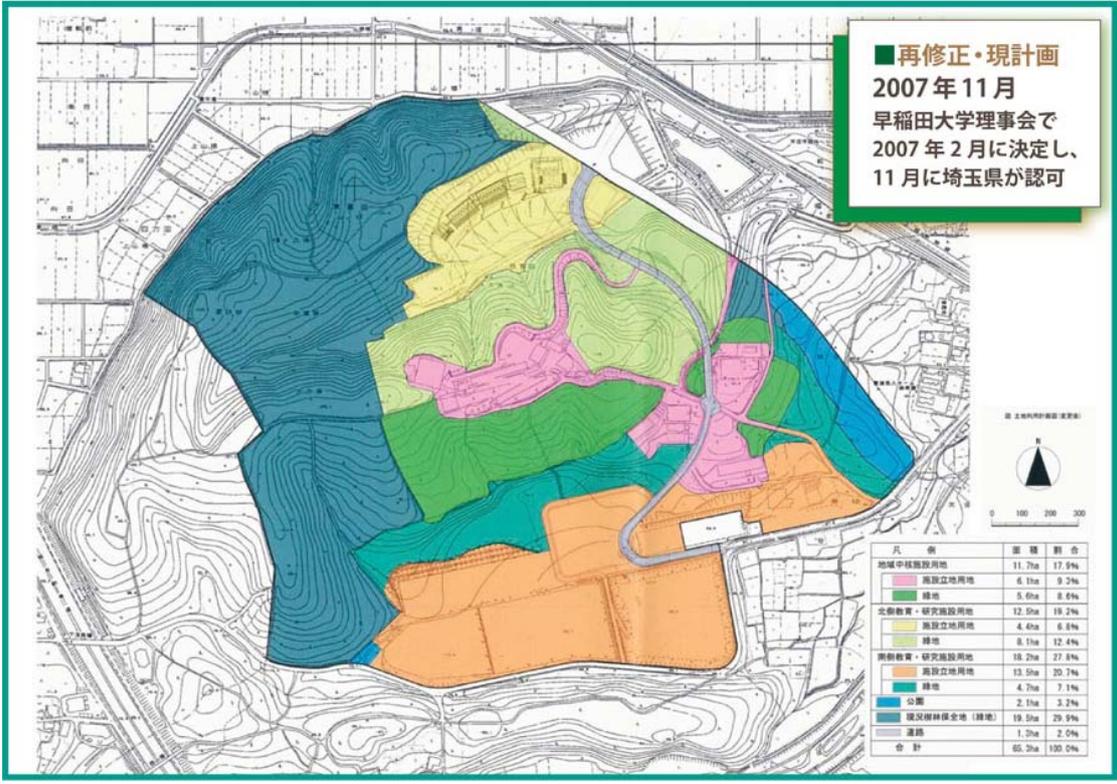
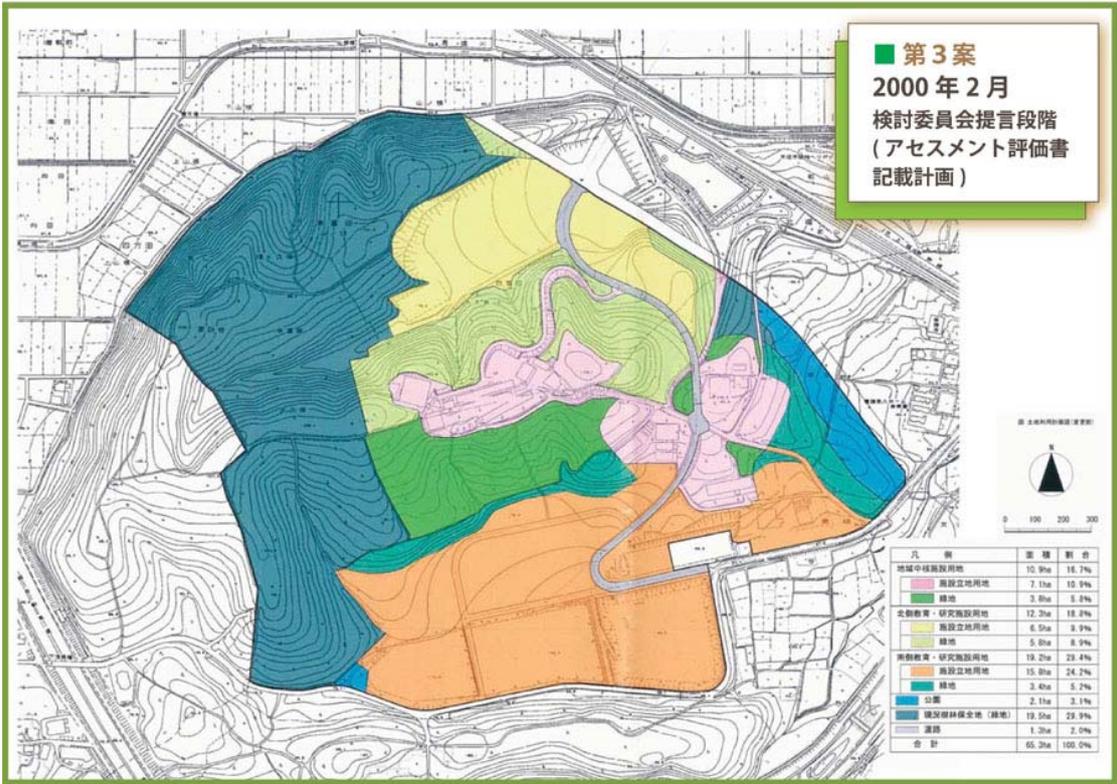




リサーチパーク地区開発全体計画の変更

—検討委員会発足以前から提言以降—







早稲田リサーチパーク地区開発全体計画の変遷

「早稲田リサーチパーク整備事業」は、対象地域である大久保山が埼玉県内では狭山丘陵と並ぶ古くからのオオタカ繁殖地であることが知られていたため、「本庄新都心土地区画整理事業」との関連も踏まえ、1998年1月から'99年8月にかけて環境庁および埼玉県のオオタカ保護指針に基づく生態調査が実施されました。

リサーチパーク地区全体の対象面積は、65.3haとされ、開発計画の当初案（第1案）は1998年8月頃には作成されていましたが、オオタカ調査終了後の1999年11月に「本庄新都地区環境対策検討委員会」が設置され、その際に正式な開発計画案（第2案）が提示されました。検討委員会では、オオタカ調査の結果を行政指針に照らして検討し、2000年2月に委員会・提言（本庄新都心地区オオタカ保護対策）をとりまとめ、開発計画の大幅修正（第3案）が行われました。この採用案は、その後実施された環境影響評価（アセスメント）でも踏襲され、2002年3月に公表された「早稲田リサーチパーク地区環境影響評価書」の土地利用計画図として記載されています。

さらに、2003年2月に公表された隣接計画である「本庄新都心土地区画整理事業環境影響評価書」でも、この開発計画との整合のもとに検討委員会・提言が反映された内容となっています。

その後のオオタカ・モニタリング調査の結果、リサーチパーク地区の造成工事着手後の2004年以降に当該地域のオオタカ繁殖数が2ペアになるなどの状況の変化が生じ、早稲田大学と検討委員会では様々な協議を何度も重ねました。最終的に開発全体計画の再修正計画が、2007年2月の早稲田大学理事会で決定され、同年11月には埼玉県に認可されました。

この新たな計画では、造形開発面積が敷地面積全体の2割以下（18.7%）とさらに縮小されたり、新設道路が半地下覆土構造を採用したりするなど、オオタカを始めとする生物多様性の改善に大きく寄与する内容となっています。

■早稲田リサーチパーク地区における開発全体計画の変化

計画全体面積65.3ha

	策定期期	造成(切土・盛土)面積	全体面積比	備考
第1案	1998年8月頃	26.3ha	40.3%	検討委員会設置以前
第2案	1999年11月	21.7ha	33.2%	検討委員会設置段階
第3案	2000年2月	16.6ha	25.4%	検討委員会提言段階
第4案	2007年11月	12.2ha	18.7%	再修正・現計画

